



しずく 通信

もくじ

01 おかえりなさいの号（はるまき）

02 感情浴会の記録 第39回～第41回

03 寄稿 休んでいたあいだの絵本（めじろ）

04 寄稿 秋の短編（草餅）

05 秋の選書

06 次の会

おかえりなさいの号

(はるまき)

今年の一月からお休みしていためじろが、今月、戻ってきます。

九か月ぶりです。赤ちゃんは、もう、はいはいで部屋じゅうを回っているそうです。はるまきも、下の子がそのくらいの頃は、洗濯物をたたみ終わるまでに三回は抱っこしていたなあ、と思い出しちゃいました。

戻ってきた最初の号なので、寄稿もお願いしました。休んでいたあいだに読んだ絵本の話です。十一人になりました。

感情浴会の記録

第39回（七月） おなかを空かせたい 『南極料理人』 沖田修一監督

- 進行：ぬか（初めての進行） 記録：ロク
- 南極の内陸の基地で、一年間、八人の隊員の食事を作る男の話。十人で同じ時間に再生しました
- ぬかの決まりは、観る前に何も食べないこと
- 記録のロクがいちばん残ったのは、基地でラーメンが作れなくなって、隊長がひどく落ちこむ場面。会のあと、冷凍してあった麺をゆでたそうです。ぬかからは、ひとくち目の感想を求められていました

第40回（八月） 熱くなりたい 『THE FIRST SLAM DUNK』 井上雄彦監督

- 進行：凧 記録：ヤギ
- 去年の暮れに公開されて、まだ上映が続いていたので、それぞれ映画館で観てきてから話しました
- 原作を読んでいたのは十人のうち六人。凧は五回観ていて、五回とも、最後の数秒で喉がつまったそうです
- 記録のヤギは、映画館を出てから、手のひらに爪のあとが四つ残っていたのに気づいた、と書いています

第41回（九月） 遠くへ行きたい 『ゼルダの伝説 ティアーズ オブ ザ キングダム』

- 進行：ヤギ 記録：はるまき
- 五月に出たゲーム。ヤギが自分の画面を映して遊び、みんなは横から見る形です
- 空に浮かぶ島のふちから、下の大地へ飛び降りる場面で、ヤギはわざと何も押さずに落ちていきました。はるまきは、ジェットコースターが大の苦手なのに、これは平気でした
- 終わったのは夜の十一時すぎ。ヤギは、いつもならここでセーブする、と言ってから、遠くの山を見るためだけに、もう少し歩いていました

寄稿 休んでいたあいだの絵本

(めじろ)

夜中の三時に、腕の中の子がやっと目をとじて、あたしはそのまま、まくらもとの絵本を一冊ひらきました。読むためじゃなくて、手に持っていたかったんだと思います。

休んでいたあいだ、読み聞かせの相手は、生まれたばかりの子と、お姉ちゃんになった上の子のふたりでした。

生まれたばかりの子には、まだお話は分かりません。だから、声と、色と、くりかえしの本ばかり読みました。かがくいひろしの『だるまさんが』は、だるまさんが、ころんだり、つぶれたり、のびたりするだけの本です。それだけなのに、ページをめくるたびに、小さな手足がびくっと動く。まだ笑わない時期でも、ちゃんと何かが届いているんだなあ、と思いました。

松谷みよ子の『いないいないばあ』は、上の子が赤ちゃんのころにも読んだ本です。ページのはしがやわらかくなって、ほつれかけています。そのほつれたところを、こんどは下の子の指がなぞっていく。同じ本を、同じ声で、もうひとりに読む。毛布を洗って、もう一度かけてあげるみたいな気持ちでした。

上の子は、赤ちゃんに絵本を読んであげる係になりました。字はまだ読めないの、絵を見ながら、自分でお話を作って読んでいます。それを横で聞いているのが、この九か月でいちばん、ページをめくる手が止まった時間でした。

会の子どもの記録は、夜中にずっと読んでいました。また、話す側にもどります。

寄稿 秋の短編

(草餅)

川べりの道を、女の人がひとり、仕事帰りに歩いていく。背中だけのコマ。うちはその一コマのところで、しばらく先へ進めなかった。

こうの史代の『夕風の街 桜の国』。広島、戦争が終わって十年ほどたった街に暮らす女の人の話と、その家族の、もっとあとの時代の話が入った一冊。短い。一時間もあれば読める。でも、読み終えてから、本を棚に戻すまでに一日かかる。

秋になると、こういう短い話が読みたくなる。夏のあいだに外に出しっぱなしだった気持ちが、夕焼け色の空の下で、少しずつ部屋の中に戻ってくる。その戻り道に、一冊で終わる話がちょうどいいんだ。

もう一冊は、和山やまの『カラオケ行こ!』。合唱部の中学生が、なぜか歌のうまくなりたい大人に、歌を教えることになる話。笑っているうちに終わって、最後の見開きで、急に胸のあたりが熱くなる。秋の夜に、笑って、少しだけさびしくなれる一冊。

どちらも、誰かに渡したくなる。付箋の色は、秋だから、少し赤いのにしようかな……

秋の選書

『流浪の月』 風良ゆう (小説)

選んだ人：灯。まわりからは決して理解されない二人の、長い年月の話です。静

かな夜に、少しずつ。読み終えてから、たぶん、しばらく何も話したくなくなります。

『注文の多い料理店』宮沢賢治（朗読で）

選んだ人：こはぜ。山で道に迷った二人の紳士が、一軒の料理店に入る話です。扉を開けるたびに、声が少しずつ変わっていくのが聴きどころなのです。

『ゾディアック』デヴィッド・フィンチャー監督（映画）

選んだ人：ロク。犯人を追う人たちの、何年にもわたる記録。答えより、書類の山のほうが怖い。

『ピクミン4』（ゲーム）

選んだ人：ヤギ。小さい体で、庭を歩く。いつもの庭が、遠い大陸になる。夕方のチャイムで手が止まる。

次の会

- 第42回（十月） テーマ「ひとりを味わいたい」。星野源のエッセイ集『いのちの車窓から』。進行は灯、記録はめじろ。戻ってきて最初の会で、さっそく記録を引き受けてくれました。
- 第43回（十一月） テーマ「ふるえたい」。漫画の回です。進行は草餅、記録はこはぜ。十一月から、また新しい仲間が加わる予定です。

しずく通信 第14号 2023年10月 編集：はるまき

しずく通信 第14号

2023年10月 発行

編集 はるまき

発行 一滴舎

この冊子は会員向けに発行したものです。